



会報

全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会

第60号
発行者
全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会
会長 山崎 篤史
事務局
岡山県倉敷市玉島阿賀崎1-2-31
玉島テレビ放送(株)内
印刷
株式会社玉島活版所

「ごあいさつ」

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会
会長 山崎 篤史



いつも子どもたちを大切に想い、この会報を手にとっていただいております全ての皆様に、心から感謝を申し上げます。

ウィズコロナと呼ばれる時期をむかえ、様々なイベントが開催されるようになってきています。自然と共に文化を育み生活をしてきた私たちにとって、子どもたちとともに四季折々の行事への参加が叶うことは大変喜ばしいことだと感じています。

この間、幼児教育を取り巻く環境は目まぐるしく変化を遂げてきました。大きな要因の一つは、経済活動を優先していると捉えることもできる、社会のニーズを追い風とした保育との融合（三年保育・預かり保育・幼保一体化）です。現場においては、子どもたちと先生という関係は変わらないままに、文部科学省と厚生労働省、2023年度設置が決定されているこども家庭庁との省庁間において、教育と保育のすみ分けが為されています。幼児教育を核とした幼保一元化が成されているのではないかと感じています。今のための保育と未来のための教育とは並立できるものと信じております。

また、社会環境の目まぐるしい変化に、幼児教育の現場への目配りが行き届いているのか不安になる要素もあります。様々な体験の重要度は変わらないままに、新たな非接触型のコミュニケーション方法やそのスキルが必須の時代をむかえています。しかしながら、その環境については、自治体によって対応の進んでいる園とそうではないところとの差が存在すると感じます。一方、小中学校のようにGIGAスクール構想の掛け声のもと、全国画一的に政策を実現していく、義務教育の力強さを目の当たりにしました。これからの幼児教育の充実については、地域・国づくりへの重要なファクターであることを関係する機関と連携を取りつつ合意形成に努める必要があると感じます。

地域の教育力の源泉は、地域に深く根を張った国公立幼稚園・こども園です。今、私たちPTA会員に必要なことは、この地域の大切な教育機関を、私たちの行動によって守らなければならないということではないでしょうか。

特別寄稿

「国公立の幼稚園・こども園が 日頃から行っていることの価値」

全国国公立幼稚園・こども園長会 会長 箕輪 恵美



全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の皆様には日頃より、全国国公立幼稚園・こども園長会（以下、国公幼）及び各都道府県・各区市町村の園長会の活動をはじめ、国公立各園の教育活動に多大なるご理解ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

コロナ禍が長引く中、保護者の皆様にはお子さんをはじめご家族の健康に気を配る日々が続いていることと思います。国公立の幼稚園・こども園、という集団生活の場においても、子どもたちの健康を守りつつ、伸びやかに過ごしながらか必要な体験を積み重ねることができるように配慮しつつ、今年もよりよい教育を目指して努力してまいりたいと思います。

さて、最近、就学前の子どもに関わる出来事を通して、「国公立の幼稚園・こども園が日頃行っていることの価値」を再確認することがありました。

ひとつは、「園における子どもの安全・安心」です。

昨年、残念なことに園児の尊厳や命に関わる事件が複数ありました。それぞれの事件の背景や要因となったことは国公立の幼稚園・こども園では考えられないようなことばかりでしたが、国公立の園においても今一度園内の状況を確認し、園生活の大前提となっている安全・安心な状態をこれからも守り続けることを、国公幼からも各都道府県の会員宛に呼び掛けました。

事件の再発を防ぐために、現在、園バスへの安全装置設置や園児の出席・欠席を管理するシステムの導入などが進められています。それも一定の効果はあるでしょうが、子どもにとって園が確実に安全・安心な場所であるためには、機器の導入だけではなく、保育者一人一人の資質や責任感の向上が重要である、と考えます。

国公立の園では、保育者が受ける研修の中には人権や子どもの安全に関わることもあり、一人が学んだことは園内で共有されています。また、園内の安全・安心を複数の目で定期的に確認し、改善が必要なことは迅速に対応することも行っています。さらに、各園では先輩から後輩に保育者としての心得が受け継がれる文化もあります。例えば、担任している学級の子どもが移動するとき、出発前と到着時に人数確認することは、担任として当たり前なすべきこととして習慣化されています。子どもの言動に感情的になることなく、子ども

の心の内を慮りながら接する姿勢も保育者の心得として浸透しています。

これからも保育者が資質向上に励むことで、子どもにとって園が安全・安心な場である、という当たり前のことを、国公立の各園で守り続けていきたいと思っています。

もうひとつは、「公の幼児教育施設としての役割」です。

私が委員を務めている内閣府の子ども・子育て会議の中で、ある自治体関係の団体を代表する委員の方が幼児期の教育の質に言及された際に「日本のどこでも、同質の教育を」と発言されました。確かに、その通りです。なぜならば、今の前にいる子どもたちが未来を心豊かに生きていくためには、敷かれた線路を走る力ではなく、自ら考え判断しながら道を切り拓いていく力が求められており、そのためには幼児期からの教育の中で必要な力を身に付けていくことが重要だからです。地域によって教育の質に差があったり、教育を十分に受けられなかったりすることは避けなくてはなりません。

国公立の幼稚園・こども園は公の幼児教育施設なので、どの園でも国が示している幼児期の教育の内容を踏まえ、遊びの中での学びを通して幼児期に育むべき力を培っています。幼児教育施設が多様化している中、全国どこでも、どの園でも同質の教育を提供できる、ということは、国公立の園ならではの特徴です。そのような国公立の園の保育者からは、地域の幼児期の教育を指導助言する人材も多数輩出しています。公の幼児教育施設だからこそできること、その価値を一人でも多くの方に知っていただき、各地で力を発揮し続けたいと願っております。

少子化や共働き家庭の増加により、このところ国公立の園、特に公立幼稚園の小規模化や園数減が進んでいます。しかし、安全・安心が確実に保障され、全国どこでも同質の教育を提供できる国公立の園は、これからの時代にもこそ必要な存在であるはずです。国公立の園はこれからも保護者や地域の皆様としっかりと手を携え、行政の皆様にご理解いただけるよう努め、3年保育や預かり保育の拡充等の必要な条件整備を働き掛けながら、全ての子どもに未来を生き抜く力の素地を幼児期から育む責任を果たしていきたいと思っています。

第60回 全国国公立幼稚園・こども園全国大会 in 山口大会

実行委員長挨拶

山口大会実行委員長 板井 佑介

まずもって、第60回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会が、この山口県を主催地とし、YouTubeでのオンライン配信をもって無事に執り行われましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

進行上、至らぬ点、配慮が行き届いていなかった点が多々あったかとは存じますが、山崎会長をはじめ、役員、理事の皆様、そして全国のPTAに関係する皆様、多くの方々のご支援、ご協力があり、結果的には“大成功”を収めることができたと確信しております。

当日は、公私ともにご多忙の中、万障繰り合わせの上、数多くのPTAに関係する皆様にご出席頂けましたことは、実行委員長としても、一保護者としても、率直にとても嬉しく感じました。「子供たちのため」であれば、ここまで多くの、そして大きな力をも動かすことが可能なのだということを改めて実感した次第です。

大会自体も、各地で活躍されている皆様と、実際に意見交換

や情報・思いの共有をすることで、知見、そして交流をより一層深めることができた、とても有意義な時間であったと感じます。このような場が、これからも継続的に開催されますことを偏に望んでおります。

全家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられる教育環境の構築に向けて、今後とも、お力添えいただけましたら幸いです。子供たちの健やかな成長のため、そして全国の幼稚園・こども園の更なる発展のために、全員一丸となってこのPTA活動を益々盛り上げて参りましょう。

次回開催の大分大会では、「手をつなぎ 広げていこう 地域の輪 ～宇宙ノオンセン県オオイタで湯ったり語ろうえ～」のテーマ通り、子供たちの明るく輝かしい未来について、湯ったり、そしてじっくり深く語り尽くされることを心より祈念いたしまして、山口大会実行委員長としての最後の謝辞に代えさせていただきます。皆様、本当にありがとうございました。

山口大会宣言文

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会は、1963(昭和38)年8月設立以来、全国国公立幼稚園・こども園PTAの連絡提携を図り、幼稚園・こども園教育振興に関する諸問題を研究協議し、その進展充実を期することを目的として活動を続け、第60回目の全国大会を迎えました。

2020(令和2)年1月に日本で最初の新型コロナウイルス感染症が確認され、2年半以上が経ちました。その間には新しい生活様式、働き方の改革、教育環境の変化、これからはDX(Digital Transformation: 進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること)の進展やSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)への取り組みなど、大きな変革の時を迎えています。全国の幼稚園・こども園の叡智を共有し、新たな次代の幼児教育に向けて検討・協議していきましょう。

第60回の山口大会では、『見ちよる 聞いちよる 話しちよる 子供の明日 無限の未来 ～親子の絆が“ふく”を呼ぶ～』

を大会主題に掲げました。子供と深く関わり、親子の絆を密にし、次代を担う子供たちの未来に想いを馳せるPTA活動を創り上げることを目指し、次のことを宣言いたします。

- 一、幼児期における教育の重要性を広く社会に訴え、幼児教育の充実を目指します。
- 一、園・家庭・地域が連携を深め、次代を担う子供たちを健やかに育みます。
- 一、PTA活動を通じて自己研鑽に励み、家庭の教育力向上に努めます。
- 一、DXやSDGsを意識し、持続可能なPTA活動・園運営に努めます。
- 一、子供の安全確保と園の安全管理の強化に努めます。

令和4年8月6日

第60回 全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会
山口大会

記念講演

人生何が起きるかわからない ～太蔵流 チャンスをつかむ技術～

講師 杉村 太蔵 氏



皆さん、こんにちは。杉村でございます。今、皆さん、携帯電話をお持ちだと思います。私でよかったら、遠慮なく撮影してもらって結構です。各幼稚園で、FacebookやInstagramなど、SNSの時代です。SNSをされている園がありましたら、遠慮なく投稿していただいて構いません。

今、全国に中継されているんですね。あらためまして、皆様方、本日はお招きいただきまして、ありがとうございます。杉村太蔵でございます。

これから45分ほどお時間をいただきましたので、少しでも皆さまに聞いて良かったな、呼んで良かった、オンラインで聞いて良かったと思っていただけるように、この45分、私なりに精一杯務めさせていただきますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

今日は「人生何が起きるかわからない ～太蔵流 チャンスをつかむ技術～」という演題をいただいておりますが、ぜひ、皆様は地域・社会全体のリーダーになってもらいたいと思っています。日本の将来の子供たちの先生ということですが、その地域・社会のリーダーになっていただきたいと思っています。私もこれまでにいろんなリーダーにお仕えしてきました。いろんなリーダーにお仕えしてきて、素敵だなと思うリーダーには、いくつか特徴があると思っています。素敵だなと思うリーダーには主に3つの特徴があると思います。

一つは、これから世の中がどう変化するか、どう変わっていくか、これをしっかり予測できる、ないしは議論ができる。これはとても重要ですね。これからどう変化するか、どう変わっていくのかを、正確に議論したり、予測するのは結構難しいのです。

例えば、ぜひ皆さん、地域の図書館に行ってください。どんな図書館にも過去の新聞があります。1年前の新聞をめくってみてください。1年前の新聞のどこに、ロシアがウクライナに侵攻するって書いてありますか？ 1年前の新聞に、1ドル139円という世界観がありますか？ 1年前の新聞に、こんなに物価が上昇するなんて書いてありましたか？ どんなに一生懸命に新聞を読んでいたり、いろんなところで情報収集していても、これからどう変化するかというのを予測するのは結構難しいのです。

そうした中で、非常におもしろい本があったので、冒頭にご紹介したいと思います。著者はスウェーデンの公衆衛生学、ドクターでもいらっしゃいます、ハンス・ロスリングさんという方が書いた『ファクトフルネス』という本があります。2019年のお正月に出版されて、今、国内では100万部以上売れている本です。ビジネス書で100万部突破というのは、異例中の異例の大ヒットです。ハンス・ロスリング先生の『ファクトフルネス』っていう本です。

ハンス・ロスリング先生はどういった分野の専門家かというところから公衆衛生学。例えばロヒンギャの難民キャンプ。不衛生な所。そういった所の公衆衛生をきれいにしないといけないよと。例えばアフリカの途上国。私たち日本人から見ると、まだそんなに汚い水、不衛生な水を使っているのかと思います。そうした水が、子供がバケツを持って何キロも歩いて、汲んで、そして生活水として使っている。それは病気になります。そういう映像って、私たちは目にすることがあるじゃないですか。非常に心痛む映像です。

そうした公衆衛生をきちんときれいにしなきゃいけないというのが、先生のご専門分野の一つなんです。この『ファクトフルネス』から、ハンス・ロスリング先生はいくつか私たちにクイズを出題していただいています。そのうちの1問を今日、用意してきましたので、ぜひ皆さん、頭を柔らかくして、挑戦していただきたいと思います。

問題です！ 今、世界中の1歳児の子供たちが、予防接種を受けることができていく割合はどのくらいだと思いますか？ 世界中の1歳児の子供たちです。今申し上げたロヒンギャ難民キャンプとかアフリカの途上国の子供たち。それから日本や欧米の先進国の子供たち。世界中の1歳児の子供たちの中で、何らかの予防接種を受けることができていく割合はどのくらいでしょうか。三択になっています。

< A : 20%、B : 50%、C : 80% >

さあどうでしょうか？

ちなみに今、資料はありません。クイズです。直感で、まだほんの20%ぐらいじゃないかと思われる方、どのくらいいらっしゃるでしょうか？ 結構いらっしゃる、ほとんどですね。

ありがとうございます。

そうなんです。私もAの20%ぐらいかなと思いました。ところが答えはCの80%でした。これ、意外だと思いませんか？まあよくいっても50%いくかいかないかかなと思いますよね。ところが、ハンス・ロスリング先生の研究ではCの80%だということです。ここでハンス・ロスリング先生がとても強調しておられることは何かというと、とかく私たちというのはネガティブな報道、悪いニュースにすごく印象を引っ張られやすい。その結果、ついつい思い込んでしまう。しかし、これからどう変化するか、どう変わっていくかを正確に議論するためには、何よりも重要なのは客観的データ・真実に基づいて議論することが何よりも重要です、ということがこのハンス・ロスリング先生の『ファクトフルネス』で強調されておられることなんです。ですから、これからのリーダーは、客観的データ・真実に基づいてこれからどう変化するのか、どう変わっていくべきなのか、これをしっかり議論できる。これが一つ、リーダーに求められる資質なのかなと思います。

この客観的データ・真実に基づいて書かれた、本当に素晴らしいもう一冊の本を紹介させてください。

著者はイギリスのロンドンビジネススクール、経営学を勉強する世界的に有名な学校がありますが、このロンドンビジネススクールで教鞭をとっておられるリンダ・グラットン先生。とってもチャーミングな女性の先生ですが、大変、知日派であると同時に親日家の先生です。コロナ前でしたが、政府の諮問委員会などに来日されて、日本はこうあるべきだということをご提言いただいている、そんな先生です。

リンダ・グラットン先生が書かれた『ライフ・シフト』という本があります。この本ではどんなことが書かれているか。これから私たちの人生は、人生80年、85年じゃないと言っています。人生100年が当たり前の時代がやってくると言っているんですよ。今でこそ新聞や雑誌を広げれば、めくれば、人生100年時代という言葉が踊っていますね。ただ、この本が発売されたのは2016年です。いくつか説がありますが、「人生100年時代」という言葉のブームの火付け役になった一冊の本が、このリンダ・グラットン先生の『ライフ・シフト』ではないかと言われている本なんです。

小泉純一郎さん、小泉元総理が初入閣されたのは、今から34、5年前です。平成元年のときです。当時、厚生大臣として初入閣されました。竹下政権の改造内閣で入ったんですね。大臣になったばかりの小泉厚生大臣。大臣室で事務方から「ところで大臣、今、わが国に100歳以上の方、何名いらっしゃるかご存じですか？」平成元年のとき、今から34、5年前。聞かれた小泉厚生大臣、「そうだな、100人ぐらいいるのかな」。そうお答えになったそうなんです。そうすると、事務方から「大

臣、そんなことおっしゃったら笑われてしまいます。ぜひ覚えておいてください。今わが国に100歳以上の方は、3000人はいらっしゃいます。」「3000人もいるのか」。平成元年です。

皆様、あれから34、5年、今、令和の時代になりました。2022年、今わが国に100歳以上の方、何名いらっしゃるかと存じでしょうか？これはぜひ覚えておいていただきたいと思います。毎年9月の敬老の日に発表になります。今わが国に100歳以上の方は、なんと8万6000人以上いらっしゃいます。8万6000人ですよ、8万6000人。80歳以上の日本人は何名いらっしゃるか、1000万人以上いらっしゃるんです。ですから、今、日本では80歳の方を「長生き」とは言いません。なんと言うか、「普通」と言うんです。全然、長生きじゃない。

世界最高齢の方はいくつか、119歳です。日本人の方なんです。福岡にお住まいでした。でしたというのは、つい最近亡くなられたです。田中さんという方です。田中さんが116歳ぐらいで世界最高齢の座についているんです。この時にたまたま僕は福岡出張で、地元の西日本新聞だったと思いますが、その新聞を読んでいたら、お祝いのインタビュー記事が掲載されていたんです。そのインタビュー記事を読んでいた、思わず吹き出してしまったんですが、記者さんが「世界最高齢、誠におめでとうございます。ただいまのお気持ちは？」そうお尋ねしたら、その方がなんとお答えになったか。「死ぬ気がしない」って答えていたんです。これ皆さん、すごい言葉だと思いませんか。「死ぬ気がしない」ですよ。私なんてビビりですから、ちょっと胃がキリキリしただけで、人間ドックに行ったほうがいいかなって思っちゃう。

ですから、きょうお集まりの皆様。もう皆様は全員100まで生きます。おめでとうございます。良かったですね、100歳まで生かれるんです。ただちょっと待ってください。今日お集まりの皆さん、みんながみんな100歳まで生きていたくと、ちょっと問題も出てくるよね、ということなんです。

考えてみれば、私たちの医療制度、社会保障制度、医療、介護、年金。こういったものがどうなるのか。それから、私たちの老後の資産。今まで人生80年、85年というふうに考え



ていました。60、65まで頑張って働いて、現役時代の貯金、それから退職金、そしてわずかながらの年金で、何とかゴールテープを切ることができたかもしれない。しかし、これからの人生100年時代だったら、そこから15年、20年も延びていく。一步間違ったらという失礼だけど、119歳ですよ。老後半世紀ですよ、皆さん。

50年も老後、分かりますか？ やっぱ、これまでの考え方や価値観では、いろいろ問題が出てくるだろう。そういう切り口が『ライフ・シフト』の議論の出発点になっているんです。非常におもしろい、興味深い本ですので、もし機会があったら是非お読みください。客観的データ・真実に基づいて議論ができる。これからのリーダーに求められる資質かなと思います。

二点目、これはとっても重要だなと思うんですが、私がかれまでにお仕えてきたリーダー、素敵だなと思うリーダーの特徴。それは皆さん、全員が常に機嫌がいいんです。常にご機嫌です。これはまた本当に大事なことで、それこそ小泉さんでもそうなんですが、私なんか1年生議員で一番末端でしょ。誰も相手にしてもらえないとは思っていない。だけど、「総理、ちょっとこんなことをやってみたいんです」と持っていく。「ちょっと見せろ、おもしろい。」「ちょっと政調会長のところ行って感想を聞いてこい。」「野党の2、3人に聞いて感想を聞いてこい。」「いつでもいいから来い、いつでもいい。」皆様方の職場にいるかいけないか知りませんが、今ちょっと忙しそうだから声掛けしたら申し訳ないかな、と気を遣わせるような、心の壁みたいなものは一切ありません。会いに行くと本当に心からウエルカムしてくれてるんじゃないかと思わせるような、そういう方です。こういうのが素敵なリーダーだなと思います。

7月8日に地元の安倍元総理があんな悲劇的な、こんなことが日本で起きるのかっていうね。私自身、小泉チルドレンだから、小泉さんってどんな人ですかとたまに聞かれるんですが、皆さん冷静に考えてください。社長と平社員ですから。

そんなに知るわけない。そんなに接点はないんです。だから、僕自身、それほどよく存じ上げているわけではないんです。ただ、安倍さんにお仕えされていた方なんかは、いろんな話を聞きますと、安倍さんも常に機嫌がいい人だったと。

ああそうだったんだと思うのは、アベノマスクってあったでしょ。すごく批判された。ただ、2019年末ぐらいから、どうも中国のほうで変なウイルスが流行っている、武漢のほうで変なウイルスが流行っているぞ。コロナか何かかわからないけど、って言って、2月に入って、経産省の秘書官が調べたんです。

貿易統計というのがあるんです。どのくらい日本は輸入してどのくらいのものを輸出したか、各品目ごとに調べられるものがあります。公表前に当然役所ですから分かるんですが、まだ国内でコロナウイルスが流行する前に、マスクの輸入量が桁違いで増えたんです。ところが、特に東京や大阪の大都市では、ほとんど街中からマスクが消えてしまった。あの当時、マスクが手に入らない。何が起きていたかといったら、一部の業者が買い占めちゃったんです。マスクはみんなが欲しがるから、買い占めてしまったらマスクの値段が上がるだろうと思って。明らかにとんでもない棒グラフだったんです。私も見せてもらいました。

そのときに、当時の秘書官がね、「総理、今こういう状況です。ぜひ総理の方から、国民全員にマスクを」と進言。マスクを皆さん一人一人に、無条件で必ずマスクをお配りします、介護関係にお勤めの方にはもう一個付けます、という形でのマスクが、全国一斉に国民一人一人に届くように手配しろ、と。その結果、マスクを大量に仕入れていた側からすると、政府が国民全員にマスクを配ったら、マスクがなくなっちゃう。そうでしょう。買い求める必要がなくなっちゃう。だから一気にその後マスクが大量に市場に出回った。東京などでは、普通はドラッグストアやコンビニで売るところが、どうしてこんな所でマスク売ってるの、ということがあったんです。だから、そういう意味では買い占めがあった、その結果が出ていたということがあって、それでも秘書官からすると、アベノマスクで散々世論から批判されて、支持率も厳しい状況になった。

このとき、秘書官がおわびに行ったんですね。「こんなに支持率を下げちゃって申し訳ありません」と。そう言ったら、安倍さんは「全く気にすることはない。君が言ったとおりになったんだ。君は間違っていない」と言って、最後の最後まであのアベノマスク、恐らく日本人で最後まで付けてたの安倍さんじゃないかっていうぐらい。あれを見たとき、自分はこの人に付いていこうと思ったそうですよ。安倍さんには常に人が集まってくる。僕が何を言いたいかというと、そ



ういう意味では常に機嫌がいい。これからリーダーに求められる大きな資質としては、自分の怒りをコントロールできる。自分の怒りって相手に伝わるんですよ。相手の怒り、皆さん伝わったことあるでしょう。自分の怒りをコントロールできるって、とっても大事だなと思いますね。

ですから、常に機嫌がいい人は、どうなるかと言ったら、常に周りに人が集まってきます。周りに人が集まって来るということは、どういうことかと言ったら、そこに当然、情報が集まって来ます。知恵が集まって来ます。当然、お金も集まって来ます。だからそういうリーダーは、大きな仕事ができるんじゃないかな、そんなふうに思います。自分の怒りをコントロールすること、常に機嫌な状態を保つこと。ご機嫌でいること。これは本当に私自身が大切なことだなと思っています。

同じく、安倍さん以上にお世話になっている林外務大臣。ここ（下関市）が地元なんですよね。林外務大臣は実は僕、大変お世話になっているんです。林外務大臣って、あんまり見た目のこと言っちゃ悪いんだけど、そんなに運動神経が良さそうじゃないでしょ。頭は良さそうですね。頭の回転が早いってのは分かりますよね。人生で一回も無駄なこと言ったことないんですって。一度も失言したことがない。すごい人です。林外務大臣は実はああ見えてっていうと本当に怒られるけど、めちゃくちゃテニスが上手なんです。動けるんですかって思うかもしれませんが。とにかくテニスはうまいし、音楽やらせたら半端ないしね。ピアノはプロだし。英語はデーブ・スペクターよりうまいです。これ間違いない、本当に。そして、ハーバードで。それでいて僕なんかとテニスやってるときも「いやー、バックの打ち方教えて」とか何とか、本当にフランクに接していただく。恐らく、地元だから言うわけではないけれども、林さんは将来、総理になるんじゃないかなって思います。

何が言いたいかというと、本当に林さんは常に機嫌がいいです。いつ行っても、冗談一つ言わない機嫌のよさってあるでしょ、わかります？ よく来たな！ってテンションではないけれども、そんな素敵な方です。ですので、怒りをコントロールするってとっても大事だっていうことが二つ目の話です。

三つ目。これまた皆さんね、結構重要なテーマなんですけどね。これからのリーダーに求められる本当に重要な資質の一つです。リーダーはビジョンがとっても大事です。ビジョン。これからはこうしよう、この地域をこうしよう、うちの幼稚園はこうしていこう、というようなビジョンを持つことはとっても大切です。ビジョンっていうのは、こうしたい、ああしたいというビジョンを持つのは、割とそんなに難しくありません。その辺のお風呂屋さんに行けば、コロナ対策の

ビジョンは全員持っています。しかし、結構難しいと思うのは、自分の頭の中で考えた、こうしたい、ああしたい、こうしたいいいんじゃないかっていうビジョンを、リーダーの仕事としては大勢の人に伝える必要がありますね。まず大勢の人に伝えて、理解してもらい、理解だけではなく、共感してもらい、そして最後には共働、共に働いてもらう。共に動いてもらう。分かるー！で終わっちゃダメ。やりましょう！っていう、アウトプットする力、説明する力、伝える力。これはですね、これからのリーダーにとっても求められる資質かなと思います。ただ、自分の頭の中で考えていることを相手に伝えるって非常に難しいです。

そうした中で、もう一冊、ご紹介したいのは、アウトプットを鍛える、自分のやりたいことを相手に伝えるという意味で、これを鍛えるとってもいい教材があるんです。素敵な教材なんです。著者は東京大学の教養学部の先生方、みんなで書いた共著になるんですが、『大人になるためのリベラルアーツ』という本があります。東京大学出版会から出されていますが、この本は、私たちが大人になってから学ぶって一体どういうことかな、英単語を1個学ぶってことではないよね。私たちが大人になってから勉強するってどういうことかなという、今、リカレント教育、大人になってからの学び直しということはよく聞きます。そういった角度で、いろんな専門家の先生方からご提言いただいている本なんです。『大人になるためのリベラルアーツ』にはいくつかの演習問題があるんですが、そのうちの演習問題の一つがね、これまたアウトプットを鍛えるとってもいい教材ですので、ぜひ、今日皆様にご紹介したいなと思います。

ちなみに、今日この会場の中で、20代・30代の方、立ってください。あー、結構いらっしゃるんですか、そうですか、そうですか。これまたねえ、逆光でなんにも見えないんだよね。申し訳ないことに。ごめんなさい、30代座ってください。20代だけ。すごいですね、そうですか。どうですか、楽しいですか？ 楽しんでますか？

それでは、明日の日本を担う20代の若き皆さんに問題です。ちょっと頭を柔らかくして、チャレンジしてください。いいですか、問題です。『あなたがこれまでに触れてきた、ありとあらゆる芸術作品の中で、最も感動した芸術作品を一つ挙げてください。』ジャンルは問いません。映画、絵画、音楽、小説、彫刻、なんでも結構です。

さあ、今までで一番感動した作品が映画だという人。あなたは何ですか、映画・絵画・彫刻、何でもいいです。

—映画— —ミュージカル— —映画—

映画・ミュージカル・映画。お三方、おめでとうございます、当選です。ステージに上がって来てください。あとの方

はお座りください。皆さん盛大な拍手を。今からお三方には、自分の人生で出会ったありとあらゆる芸術作品の中で、最も感動した芸術作品の一つ挙げていただきます。お三方には、なぜその芸術作品に感動したのか、その理由を1分以内で皆さんにプレゼンしていただきます。皆さんは、そのお三方の芸術作品を公平に聞いていただいて、どの芸術作品が最も自分もそれ見てみたい、触れてみたい、そう心を突き動かされるプレゼンだったかをジャッジしていただきます。最後に選挙を行います。一人一票の拍手で決めます。それでは、心の準備ができたようです。

—タシロです。私が感動した作品は、『ジュラシック・パーク』です。理由としては、恐竜時代の歴史がおもしろいのと、化石などを福岡の博物館に行くと見られるし、そういうのを子供にも教えることができ、勉強の良い機会にはなるなと思って、金曜ロードショーであった映画を下の子と上の子と一緒に見ていて、ちょっと怖いとは言われたんですけど、グロテスクなので。でも、男の子は好きだから、男の子が興味持ってくれたら、話ができたらうれしいなと思います。

—はい！分かりました。ありがとうございます。さあ続いて、元気よくいってみましょう！映画？

—舞台でいいですか？私はずっと前に福岡であった、橋本環奈ちゃんが出ている『千と千尋の神隠し』の舞台を観に行きました。ずっと映画で見ていたものが、目の前に出てくる、リアルに出てくるっていうのにすごく感動しました。セットもすごく大きくて、現実的なもので、あーこんな世界が観られるんだっていうのにすごく感動しました。俳優さんたちもすごく迫力のある演劇ですごく心打たれました。以上です。

—はい、ありがとうございます。次の方、どうぞ

—私はミュージカルがすごく好きで、高校の修学旅行で初めて劇団四季を見たんですが、『オペラ座の怪人』を初めて見て、全く話の内容が分からなくて見たんですが、初めて見たときにすごい大勢の人の前で、すごくきれいな声で歌ってる劇団四季の方を見て、すごく感動して、鳥肌も立って、こんなに人前ですごく表現できるって素晴らしいなと思いました。以上です。

—ありがとうございます！さあ投票に移ります。この人数ですので、一人一票です。できるだけ大きな拍手を送っていただきたいなと思います。

まずはトップバッターでやっていただいた『ジュラシック・パーク』が良かったっていう人、拍手！（拍手）

続いて、『橋本環奈ちゃんの舞台』が良かったっていう人、拍手！（拍手）

最後、『オペラ座の怪人』が良かったっていう人、拍手！（拍手）

あー、難しい！では決選投票！

『橋本環奈ちゃん』が良かったっていう方！（拍手）

『オペラ座の怪人』が良かったっていう方！（拍手）

『オペラ座の怪人』の勝ち！おめでとうございます。嬉しいですね。

良かった。お三方、皆さん良かったです！お三方、やってみて難しくなかったですか？でも、嬉しいでしょ。これって、共感してもらって嬉しいことなんです。自分の思いが伝わった、理解してもらった。皆さんに共感してもらえた。これはやっぱりリーダーの醍醐味です。一方で、これ結構難しいんです。そっち（客席）で聞いているのと、こっち（舞台上）でやるのでは、天と地ほどの差があります。

今日ね、僕が言いたいのは、何故こういうことがこんなに難しいのかっていうことなの。私たちというのは、インプットの訓練って、結構日頃から受けているんです。ですが、いざ、あなたの考えを述べなさい、とアウトプットを求められると、案外われわれはその訓練を受けていません。だから、なかなか言葉が出てこない。この訓練はとても重要で、世の中には自分の言いたいことが相手に伝わらない、自分の言いたいことが先輩に伝わらない、自分の言いたいことがお客さまに伝わらない、このアウトプット能力を軽視しているがゆえに、大きく損をしている方が大勢いらっしゃる。大事なことは訓練が必要だということです。訓練ということは、そういう環境をしっかりとつくるということが大事。環境というのはどういうことかという、一定数の前、10人ぐらいがちゃんと座って、自分は立って、しっかり自分の考えを説明するっていう訓練の場を設けるということが大事だということをお私は強く思います。だって考えてみればね、自分の感動した芸術作品ですから、その何たるかということは頭にあるわけでしょ。知識として。それはどういうものなのかっていうと、なかなか言葉が出てこない。

ただこれね、本当にお世辞抜きに言いますけども、私いろんな所でやってますけども、今までのプレゼンの中では、ここ下関が一番レベルが高いです、この三人！本当、さすが下関よ！本当！普通ねえ、こんなに三本ビシって揃わないんです。まあ一人ぐらいは素晴らしい、二人はいてもいいけど。三人ともきちんとおもしろくて、そして自分の思いを伝える。素晴らしかったです。後から主催者からボールペンでも貰ってください。ありがとうございました！お三方に盛大な拍手を！ありがとうございました！

もう一問いきます。じゃあ今度は30代・40代、って言ったら立たなくなるので、座って聞いてください。今、世界のリーダーを目指す若者が勉強するところに、今も昔もそうですが、アメリカのハーバード大学がありますね。ハーバードでは日本史の講座が非常に人気だそうです。いくつか日本史の講座

があるんですが、中でも人気のある講座は、「アジアの中の日本・世界の中の日本」という講座があります。履修が始まったと同時に履修生で埋まってしまう。授業も大学の中で一番大きな講堂を使うそうなんですが、立ち見が出るほど人気だと言われています。

今日は世界のリーダーを目指す若者が勉強するハーバード大学の期末試験、「アジアの中の日本・世界の中の日本」の期末試験をぜひ皆様方にご紹介したいと思います。これもアウトプットを鍛える意味では、とてもとてもいい問題です。ぜひ頭を柔らかくしてチャレンジしていただきたいと思います。

問題です！ わが国はこれまで歴史的な大きな転換点を3回経験しています。一つは1600年。もう一つは1868年。そして最後1945年。1600年・1868年・1945年。あなたは、どの年代の転換点が日本にとって最も政治的、文化的、社会的、外交的、経済的に大きな影響を与えたと考えますか。残る2つについても記述しなさい。時間60分、文字数無制限。これ、ハーバードの学生はピッタリ書くそうです。

この問題、日本人では、1600年・1868年・1945年、関ヶ原・明治維新・終戦って聞いて、ピンとこない人はいません。それなりに私たちは知識を持っているんです。だけどこれもね、いざ自分の考えを述べよって言われたときに、なかなか難しいです。これは一気に、先ほどの問題が初級編だとすると、アウトプットを鍛える問題としては上級編になります。ぜひ、皆様方の幼稚園でも、地域の中でも、何か機会があったら、自分の意見をしっかり説明する、述べる。突然の問いかけがあっても、一瞬で自分の頭の中を整理して理路整然、論理立てて話しができるようになる。これはとても重要なスキルかなと思っています。

じゃあ、おまえやってみろって言われても、なかなか難しいですよ。そんなに簡単ではないんですが、一つね、芸術作品っていうことでのいうならば、1850何年だったかな、サミュエル・スマイルズさんという方が書いた『自助論』っていう本があります。この本はどのような本かというと、僕はいつも枕元に置いてるんですが、結構分厚い本なんですけど、要するに19世紀よりも前の、世界の有名・無名にかかわらず、偉大な業績を残した人の5W1H、いつ、誰が、どこで、何を、どのように、そしてどうしてそんなことやったのか、ということが史実のとおり淡々と書いている本なんです。これを読むと、人間ってたった1人でこんなに世の中を変えることができるのか、志一つでこんなに世界を変えることができるのか、と感動すると思います。

本を読むときに僕自身が心掛けているのは、必ず2行でも3行でもいいので感想を書きます。特にこの『自助論』は、いろんな偉人たちの業績が書かれてあって、それを読んで、

私自身の感想をそのまま殴り書きでもしておきます。そうすると何が起きるといって、僕が証券会社に入ったか入らないかぐらいの時の、今から20年以上前に本を買って、ずっと取っている本なんですが、例えば5年前に読んだ感想と今では全く違います。つまり、同じエピソード、同じ内容でも、自分の変化がすごく感じられます。ああ、あの時はこんなふうに思っていたんだと。そういう本の使い方も非常にもおもしろい。ぜひ、サミュエル・スマイルズの『自助論』も、一つおもしろい本かなと思います。

それから、ダーウィンの『進化論』。もし時間があったらぜひ読んでみてください。ダーウィンの『進化論』って、何が書かれているかというと、地球46億年の歴史を生物学者のダーウィンが調べました。どういう生き物がこれまでに生き残ってきたかをいろいろと研究してきた。そうした中で、ダーウィン曰く、何もデカイ生物が生き残ってきたわけではない。ましてや強烈な武器を持っている強い生物が生き残ってきたわけではない。では、どういう生物が生き残ってきたか。環境の変化にきちんと対応してきた生物が生き残ってきたって書いてあるんです。

これから私たちの時代も本当に激変すると思います。教育現場でも本当に大きな変化はこれからも続くと思います。さまざまな変化の中に、その環境にきちんと対応していく。そういった力がこれから大切なのではないかなと思います。同時に、そういった心掛けを持っておくということが、チャンスをつかむ一つの技術ではないかなと思います。

客観的データ・真実に基づいて議論できること。常にご機嫌であること。アウトプット・説明する力を持つこと。この三つが私自身がとても大事なことでと思っています。

さあ！ いただいた時間、45分になります。少しでも今日、45分聞いてよかったな、呼んでよかったなと思っていただけるように、私この45分間、全力を尽くしました。頂いた仕事に、目の前の仕事に全力を尽くすということがとても大事だと思っています。

阪急電鉄の創設者、小林一三さんという方がいらして、その方が生前よく言っていたのは、「君、もし下足番を命じられたら、げた箱の整理を命じられたら、日本一の下足番になりなさい。もしあなたが本当に日本一の下足番になったら、誰も君を下足番では放っておかないよ」と。そんな言葉をよくおっしゃっていたそうです。

頂いた仕事に全力を尽くすということがとても大事なかなと思っています。日本の明日をつくる、とてもとても崇高な皆様方の日ごろの活動、お仕事に心から敬意と感謝を込めて、私の話を終わらせていただきます！ ご清聴、誠にありがとうございました！

提案発表

みんなで育てるこどもの力
「自分でTry ふぞくっ子」

～一人一人の個性を活かして～



香川大学教育学部附属幼稚園
令和4年度松韻会幼稚園
副会長

河野 康子

1 はじめに

香川大学教育学部附属幼稚園は、坂出市人口約5万人の市中心部にあります。坂出市は、保元の乱で敗れましたが、崇徳天皇が讃岐の地で過ごし、奉られている場所です。また



江戸時代の後半から、遠浅を利用し、久米栄左衛門によって築造された塩田が栄え、昭和63年4月10日には瀬戸大橋が開通し、坂出市は四国の玄関口として知られるようになり、「歴史のまち・塩のまち・瀬戸大橋のまち「さかいで」と言われています。

今では、工業も盛んとなり、歴史を残しつつも、新たに住みよいまちづくりが進んでいます。本園の周りにも、学校がいくつか存在し、通りは、学園通りと呼ばれております。学校同士の交流も行われ、園児たちも、お兄さんお姉さんと遊べる時は、朝からワクワクしながら園生活を送っております。

2 園の概要

本園は、昭和8年に香川県女子師範学校の附属幼稚園として、幼児定員30名で坂出の地に創立されました。昭和51年には、学級増として高松に高松園舎を増設し、坂出、高松それぞれが独自の教育課程を編成して幼児の教育を行ってきました。現在の学級数は、高松園舎を併せて3歳児1、4歳児2、5歳児2の計5学級、幼児数は134名(R4.5.1現在)です。連絡進学により毎年約60名の卒園児を附属坂出小学校、高松小学校へ送り出しています。

3 松韻会活動

附属幼稚園のPTA組織は、幼・小・中の3校園一体のPTA組織となり、松韻会と称されています。松韻会は、その3校園の保護者と先生で構成しています。附属坂出学園は連絡進学のため、PTAの皆さんがひとつになり、各学園内

での行事に触れたり、合同の行事にも参加したりするなどして、子ども達の成長を見守っていきます。保護者の「絆」が学校を支える原動力であると考えています。

※PTA活動紹介

☆クラス新聞

春・秋の年2回、各クラスの新関係さんが新聞を発行してくれます。子ども達が今何に興味を持っているか、何が好きなのか、毎回工夫を凝らしています。



保護者の皆様にも楽しんで作製してもらえるよう、アイデアも自由に決めていますので、クラスごとにいろいろなデザインで仕上がっています。ワクワクする新聞です。新聞はクラス全員と担任の先生に配布され、玄関にも掲示されます。



☆夕涼み会

7月第1週目の金曜日、バザー、ゲーム、お店など保護者企画による夕涼み会が開催されます。浴衣姿に身を包んだ子ども達も歌や盆踊りなどを披露します。(R4年度は、7月8日に実施) 自分たちでお買い物をしたり、ゲームで遊んだりする中で、いろいろな気付きや学びを獲得しています。



子ども達の楽しい笑い声や笑顔でいっぱいになります。

☆土曜メンテナンス

附属坂出学園の保護者と子ども達のボランティア参加により、幼稚園のメンテナンスを年1回行います。R3年度は、コロナ禍の為、幼稚園の保護者・園児・児童のみで実施(R3.12.18)し、50名以上もの方々が参加してくれました。

園内をピカピカにすることで、大切に使いながら遊ぼうという心が芽生えてきます。



☆保護者による絵本の読み聞かせ

年長さん、年中さんの各クラスごとに、月1回、絵本の読み聞かせを行っております。

毎回子ども達に絵本から学び、楽しんでもらえるようなものを選んでお話をしています。



☆手作りおやつ

月に一度、保護者による手作りおやつを通して子ども達の充実した園生活のお手伝いをしています。

アレルギー対応や、季節に合うおやつを考えるのも保護者同士勉強になっています。



☆県下一斉パトロール

年2回、7月と11月の月初めに、役員と年中の係さんが園門で立哨を行います。下校時に保護者と園児がルールを守って安全に帰れるように見守っています。



一生懸命右を見て左を見て手を挙げて、横断歩道を渡る園児の姿に成長を感じています。

☆カレーパーティ

年長さんが、園の畑で水やりや草抜きをして育ててきたジャガイモと玉ねぎを収穫し、実際に野菜を切る体験も行い、カレーを作って、幼稚園のみんなに振る舞います。年長さんの役員や常任委員が、そのお手伝いをしておいしいカレーを作ります。



その様子を年中さんや年少さんが、出来上がるまでずっと見守っていてくれる姿は、一つの家族のようです。出来上がったカレーは、とても美味しいと言ってきて、どのクラスも完食でした。

☆ウェンディの会

保護者間の交流として文化部および体育部があります。園児だけではなく保護者同士が子ども達の様子など話したり交流したりできる場を設けています。

<文化部>

令和3年度は、坂出市立体育館で「子どもとできる軽い運動・ストレッチ」を実施し、感染対策をしながら、楽しく運動やストレッチを行いました。



<体育の部>

園内対抗のウェンディ杯ソフトバレーボール大会も実施しています。(R3年度は、コロナ禍の為に中止)



令和3年度はコロナ禍（蔓延防止等重点措置期間）の為に中止でし

たが、以前は、坂出市PTAソフトバレーボール大会・ソフトボール大会に幼稚園チームとして毎年出場していました。



☆附属坂出学園運動会

例年、幼・小・中・特別支援学校の4校園合同の運動会が行われます。幅広い年齢の子ども達相互の関わりは、多くの気づきや学びがあります。総勢3,000人近く集まる運動会なので、スムーズな運営を行う為にも、松韻会では、警備やバザーなどで運営に協力しています。R2年度～R4年度はコロナ禍の為に合同運動会は中止となりましたが、一日も早く合同運動会が再開できることを楽しみにしています。

☆OYG（おやじ）の会

お父さん達が中心となり、園庭で親子遊び、小学校のプールを利用した水遊びなど、毎年、子ども達のために新しい企画を考え実施しています。近年は、コロナウイルス感染拡大のために実施できていません。



4 地域との連携

★毎年、夏の風物詩である「さかいで大橋まつり」の総おどりに松韻会「附属坂出学園」の連として参加しています。(R2年度～R4年度は、コロナ禍の為に中止)

★「読み聞かせの会」の方が、学期に1回、園に来てくれて全クラスを対象に絵本の読み聞かせをしてくれます。



★隔年で12月頃に、坂出のライオンズクラブさんが園に来てくれて、餅つき大会を行います。保護者の方もお手伝いし、子ども達は笑顔でいっぱいです。コロナ禍のため今年度12月、3年ぶりに実施予定です。

5 結びに

坂出附属学園は、保護者と先生方が一体となり、日々子ども達の成長を見守っております。また、地域の方々にたくさんサポートしていただいております。近年は、新型コロナウイルス感染拡大の対応で行事等も中止に見舞われましたが、周りの方々に感謝しながら、子ども達の園生活を多くの学びと喜びに満ち溢れるよう、できないではなく、どうやったらできるのかを考えながら、PTA活動を行っていききたいと思います。

【兵庫県】

地域で育む子育てを目指して

～ 長年培ったべっちょない子育て ～



姫路市立飾磨幼稚園
令和元年度PTA会長
宗實 真紀

1 はじめに

飾磨幼稚園は、兵庫県の南西部に位置し、南は瀬戸内海に面した自然環境に恵まれた姫路市にあります。

姫路市は人口52万人の中核都市で、日本で初めて世界文化遺産に登録された姫路城があります。また、屋台の練り合わせで有名な「灘のけんか祭り」など、五穀豊穡を願う古くからの伝統ある祭りが盛んで、祭りは、地域住民のコミュニティの場となっています。

市内には34園の市立幼稚園があり、魅力ある教育の発信に努めるなど、各園で特色ある教育活動を進めています。

**2 本園の概要**

飾磨幼稚園の歴史は古く、明治39年に婦人会が中心となり日曜日毎に始めた保育を前身として、明治44年に設立されました。平成17年には創立100周年の記念式典が、地域の方も交え盛大に挙行されました。

令和2年度からは3年保育が市内の6園で導入され、本園もその1園として3年間の幼児教育を推進しています。

令和3年度の園児数は、5歳児25名、4歳児25名、3歳児20名の計70名です。

3 飾磨幼稚園PTA活動について**○幼稚園とともに****飾磨幼稚園教育目標**

- し：自分で考え意欲をもってとりくむ子
- か：感動を素直に表現できる子
- ま：交わってのびのびと力いっぱい遊ぶ子

よりよい子供の育ちのために、保護者と幼稚園が同じ思いをもって、PTA活動に取り組んでいます。

○取組内容**・七夕まつり**

幼稚園近くの神社では、盛大に夏祭りが行われています。たくさんの出店が並び、子供たちの中には家族で出掛け夏祭りを楽しむ子もいます。幼稚園でも同じような経験をさせてやりたいという保護者の思いから、保護者が中心となりお店を準備して七夕まつりを開いています。お店は、魚つり・くじびきなど、どの年齢の子供たちも楽しめるように保護者が企画しています。お店の発案から出店準備などを通して、これまで交流の少なかった保護者同士も共通の話題があることで、コミュニケーションをとりやすくなり、親睦が深まっています。保護者同士の交流が深まることは、子育ての安心につながっています。また、お店巡りをして子供たちの喜ぶ姿を間近に見ることができ、保護者も充実感を味わっています。

**・おまつりごっこ**

毎年10月に行われるおまつりごっこは、親も子も楽しみにしている行事の一つです。子供たちは地域の秋まつりが近づくと、机を運ぶ時には「ヨーイヤサー」と声を掛け合ったり、バチに見立てた棒を持って太鼓を叩く真似をしたりして遊ぶようになります。園の周辺には、おまつりに必要な提灯や腕守りを手作りする伝統的なお店があり、園外保育でお店を訪れ、職人技を見学できます。地域の方には太鼓の指導にも来ていただき、子供たちが実際に太鼓を叩かせてもらうことで、おまつりごっこも盛り上がります。

おまつりごっこ本番では、地域の神社まで子供たちが安全に手作り屋台を担いでいけるよう、保護者や地域の方が見守っています。子供たちが生き生きと友達と心を合わせて屋台を担ぐ姿は、地域の伝統を受け継ぐ姿として保護者も頼もしく感じています。



・姫路港ふれあいフェスティバル

毎年7月と10月に姫路港の重要性や海の魅力を発信する開港記念のフェスティバルが港で行われています。地元の幼稚園として飾磨幼稚園の園児も野外ステージでダンスや歌などを披露しています。休日ということもあり港までの送迎は保護者が率先して行い、子供たちの出演準備を手伝っています。市内外から集まった大勢の観客の前で堂々と披露する姿に子供たちの大きな成長を感じ、保護者は子育ての自信となっています。



・SDGsへの取り組み

PTA役員が中心となり各家庭の協力を得て、古紙、アルミ缶回収・ベルマーク収集を行っています。集まった収益は、園の教育活動や環境の充実に活用しています。保護者がSDGsを意識した活動をすることで、子供たちも家庭において保護者と一緒に考えたり、ベルマークのついている商品を選んだりするようになってきました。親子でSDGsに取り組むことが、持続可能な社会に向けて、未来を生きる子供たちの安心につながっています。



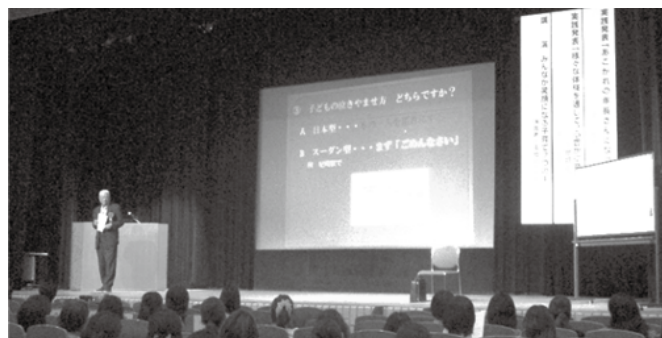
4 様々なつながりを通して

飾磨幼稚園PTA会長となった私は、姫路市・西播磨地区・兵庫県それぞれのPTA役員も務めました。園内外での活動において、それぞれの地域の特色を生かした行事にふれ、先生方、PTA会員同士のつながりや連携ができるとともに、『一期一会を大切にしたい。幼稚園の取組について情報発信したい』という気持ちが高まり、子育て環境の改善に向けた活動や姫路市の子ども子育て会議などにおいて、幼稚園教育

のよさをアピールする活動を積極的に行いました。姫路市教育フォーラム2019が開催された時には、子供の教育を社会全体で支援していこうとする機運を高めることに賛同し、姫路市立幼稚園連合PTA協議会の活動内容を広く発信するためのパネルを作成し展示することで、一般の方への理解を深めることができました。



また、毎年9月に開催される幼稚園教育振興大会は、PTA活動や園の教育内容の発信・紹介や会員相互の理解・研修を深める機会となっています。園長は園の教育実践を、PTAは日頃の子育てについて発表しています。幼稚園の広い園庭で伸び伸びと体を動かし、教師や友達と様々な体験を積み重ね、たくましく成長する姿に共感できることが多く、幼児教育への信頼や安心した子育てにつながっています。



5 おわりに

飾磨幼稚園PTAが行ってきた活動は、保護者同士の交流の深まり、地域の見守り、ふるさとを愛する気持ち、未来に向けての安心した子育てにつながっています。

今、コロナ禍における生活の中でも、PTA活動を通して、希薄になっている人や地域とのつながりが深まり、保護者の視野も広がっています。どのような状況であっても、長年培った家庭や地域、先生方との連携が子供たちの学びを支えています。今後も、播州弁で大丈夫という意味の、べっちょない子育てに、園や地域とともに取り組んでいきたいと思ひます。

【島根県】

コロナ禍における PTA 活動の 在り方と工夫

～ 子どもたちの笑顔のために
できること ～



安来市立安来幼稚園
令和4年度 PTA 会長

小山 稔

1 はじめに

本園は、島根県の東部、鳥取県との県境に位置する安来市にあります。

安来市は中国山地に連なる豊かな緑に覆われ、そこを源流として中海に注ぐ飯梨川や伯太川などもあり豊かな自然にあふれています。

山陰における水陸の交通の要衝という、恵まれた地勢により花開いた文化と産業の伝統がありどじょうすくい踊りで有名な民謡〈安来節〉、世界的シェアを有する高級特殊鋼産業、海外からも高い評価を受ける〈足立美術館〉などがあります。

2 園の概要

安来幼稚園は、大正12年に安来市婦人会による幼稚園として創立されました。

昭和3年に安来市立安来幼稚園と改称し、昭和13年に現在の場所に移転しました。

15年前には130名超の園児が在籍し、県内でも大型幼稚園として存在していましたが、年々園児数は減少し、現在は3・4歳児混合クラスと児クラスの2クラス編成で、全園児28名の園児が在籍しています。

本園には広い園庭があり、安来市の花である桜やハナミズ

キの木陰では、夏の爽やかな風を感じ、また園庭に咲く季節の草花や鳥のさえずりに移ろう四季を感じながら、子どもたちがのびのびと遊んでいます。

また、夏野菜を育てる園の畑では、栽培や収穫を通じた食育活動を行い、

小さな生き物や虫たちとの出会いからは、命の大切さも学んでいます。

園の教育目標を「たくましく心豊かに伸びる幼児の育成」とし、互いに認め合う仲間作りを大切にした教育を展開し、また、地域の方とのふれあいや、園外活動を通じた直接体験、地域の伝統芸能の体験などを重視した活動に重点をおくなどした、ふるさと教育にも力を入れて取り組んでいます。



3 PTA組織について

安来幼稚園のPTA組織は、昨年度まで執行部、総務係、絵本係、運動会係、文集係の1部4係制で行っていました。

しかし、園児数減少による入園世帯減少により、これを維持することが困難となったため、今年度より執行部のみの体制として活動することと致しました。執行部の内訳は、会長1名、副会長2名、会計監査2名の計5名です。

4 PTA活動について

これまで安来幼稚園では、毎年、夏祭り、運動会、バザー等といったPTA行事を行ってきましたが、ここ2年余りは新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施できない状況が続いていました。

しかし、今年度になって少しずつ活動を再会し、子どもたちや保護者の安心・安全に配慮した対策を取りながら実施しているところです。

今年度実施した活動は以下の2つです。

《交通安全街頭指導》

春と秋の全国交通安全運動期間中にそれぞれ2日間、執行部員が園児と保護者に挨拶をしながら登園を見守りました。

春は滞りなく終わりましたので次回は秋に行います。



《七夕祭り》

今年度、園から「夏祭りができない代わりに園の七夕祭りの中でPTAのブースを作って一緒にやりましょう」との誘いがあり、七夕祭りに特別出店という形で参加させていただきました。

催しについては、メンバーと協議をして、〈スーパーボールすくい〉と、〈宝探しビンゴ〉の2つに決めました。〈スーパーボールすくい〉は、金魚すくいの要領で、プールに浮かべた大小様々なスーパーボールをすくいます。

また、〈宝探しビンゴ〉は、数字の代わりに、年齢別に子どもたちに人気の絵本から絵を選び、それを園内のあちこちに貼って、子どもたちが主体になって探してもらうルールにしました。

ブースを回った確認は園の先生方に準備してもらった「おまつり券」にチェック欄を作ってもらい、裏面に貼ったビンゴカードと表裏揃ったものを回収して景品を渡すという形で行いました。

今年度、計画している活動は以下の通りです。

《PTA 園内環境整備》

2学期が始まる前の夏休みの終盤、園内や送迎で使用する駐車場スペースの除草作業、園庭の築山や砂場の整備、遊具の整理などを園の先生方と一緒にいきます。

休日の早朝からの作業にも関わらず、保護者の方の出席率も高く、子どもたちのためにと協力していただけることに感謝しています。

きれいになった園庭で遊ぶ子どもたちの姿を見て嬉しく思います。

《わくわく運動会》

秋季の〈わくわく運動会〉では、運動会に必要な道具の準備やテント設営、競技中の先生方の補佐、運動会終了後の片付けなどを行います。開催には様々な感染症対策を行います。



- ・参加は各家庭2名まで。
- ・検温、マスク着用、消毒
- ・競技内容の工夫、短時間での開催
- ・ソーシャルディスタンスの徹底
- ・観客席は設けず保護者は家庭毎に離れて観戦

など、環境整備同様に、各家庭の保護者の皆さんに協力していただきます。

一人ひとりの子どもたちの頑張っている姿を間近に見ることで成長を共に喜び合い実感できる運動会です。

《PTA 文集》

安来幼稚園で長く続いている伝統あるPTA文集「小さな手」の作成です。

今年度、第50号となるPTA文集には、1年間の子どもたちの活動の様子や、一人ひとりの写真入りプロフィール等を掲載します。この文集は、保護者には子どもたちの成長を楽しみに実感できるものであり、子どもたちにとっては、大人になった時に懐かしさと幼き日々を実感できるものでもあります。今年度もすでに執行部で準備を進めており、年度末の第50号発行に向けて、全員で作成にとりかかります。



5 課題とまとめ

PTA活動や園行事において、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、試行錯誤を繰り返す日々でした。

新型コロナウイルスの終息が未だ見えない中、感染のリスクを抱えながらも可能な限りの対策をして乗り切っておりますが、やはり、子どもたちの地域社会との結びつきや地域住民との交流、地域の伝統芸能に深く触れ合うことは少なくなっていてとても残念に思います。

地域のことをもっと知り、体験することによって、自分が暮らしているこの地、安来が好きになっていくと思いますので、子どもたちの笑顔のために一日も早く、安心・安全な日々が戻ることを願うばかりです。

また、安来幼稚園は、保育料無償化や新型コロナウイルス感染症の影響による減収・少子化等により幼稚園の入園を選んでももらえない現状があります。

幼稚園のPTA活動を少しでもアピールし、保護者の方に選んでいただけ、園児と共に楽しく充実した園生活ができるよう、今後も一生懸命取り組んで行きたいと思っています。

指導助言

文部科学省
文部科学省 総合教育政策局
地域学習推進課 青少年教育室 室長補佐
山本 健司

よろしくお願いいたします。皆さんこんにちは、文部科学省の山本と申します。本日は、昨年度に引き続きましてこの大会に参加させていただくということで、大変、うれしく思っております。また本日、ご参加の皆さまにおかれましては、コロナ禍の下でございますけれども、子どもたちの成長のためにPTA活動に取り組んでいただいているということに對しまして、大変、敬意を表しますとともに、感謝を申し上げます。きょうは、先ほどご発表がありました3園の取り組みにつきまして、誠にせんえつながら感想を述べさせていただきます。皆さまの何かのお役に立てればと思っております。

まず、最初にご発表いただいた飾磨幼稚園さんの取り組みでございますが。大変、印象的だと思いましたが、PTA活動が子どものためであるというのはもちろんなんですけど、親にとっても親同士のコミュニケーションがあることによりまして、育児不安が和らげることができたりですとか、親の孤立化を防ぐといったことにもつながるというお話がございました。現在、核家族化ですとか、共働き家庭といったご家庭の事情がおりかと思えます。そういう中で、PTAが親同士の親睦を深めるということの一助になってるというのが大変、素晴らしいことじゃないかなと思っております。会長さまのお話にもありましたけれども、大人も楽しみたい、親が楽しいと子どもも楽しいと。そういったような思いの下で活動されているというのが、大変、いいことなんじゃないかなと思いました。

飾磨幼稚園、姫路市にあるということなんですけども、大変、歴史のある幼稚園ということで、地域のお祭りに、地域のお店のほうに出掛けていって、職人さんの作業の様子を見たりと。また、太鼓をたたかせてもらったりということも行っているということでございますので、地域の方のご協力もいただきながら、地域と密着した活動が行われているという大変、素晴らしいことじゃないかなと思いました。こういった地域に出て行く活動というのは、子どもたちにとっても大変、いい刺激になるんじゃないかなと思います。この園の教育目標であります、自分で考え意欲を持って取り組む子、感動を素直に表現できる子、交わって伸び伸びと力いっぱい学ぶ子という目標は、大変、素晴らしい目標であると思えます。恐らく、長い幼稚園の歴史の中で培ってきた目標なんだと思

ますけれども、これからもこの目標の下、多くの子どもたちがたくましく育ってほしいなと思います。

続きましてご説明のありました、安来幼稚園様の取り組みについてですけれども、最後にありました安来節の踊りですね。非常に素晴らしかったと思います。ここまでできるようになるには相当、練習したんじゃないかなと思います。指導された先生がたの熱意というのも非常に伝わってまいりました。本当、歴史というか安来節という伝統文化のある地域でございますので、こういった取り組みが脈々とつながっていくというのが非常に素晴らしいことなんじゃないかなと思いました。こちらの園のご発表の中にもありましたけれども、コロナが始まって3年近くたつわけでございますけれども、その間、全国のPTAで試行錯誤しながらいろんな取り組みが行われてきました。こちらの安来幼稚園におかれましては、夏祭りの代わりに七夕祭りの中でPTAのブースを設けたり、感染対策を取った運動会をこれから開催するというございました。こういったコロナを踏まえてPTA活動の合わせたやり方を変えていくというのは、非常に大切なことなんじゃないかなと思いました。

きょうも表彰されておりましたけれども、文部科学省のほうで優良PTA文部科学大臣表彰というのを行っております。その表彰団体、表彰された園ですとか、学校の皆さんの取り組みを見ますと、コロナの下で何とか活動していこうということで、例えばオンラインを活用した会議ですとか、メールやSNSを使った情報発信、意思決定というものが行われていたりですとか。また先ほどの話じゃないですけど、共働き家庭が増えているという中でPTA活動の見直しですね。人数を見直したりですとかいうことを行っていくということもございます。こちらの安来幼稚園さんのほうでも組織の在り方も見直したということで、そういった状況に合わせたPTAの活動や、在り方の見直しというのも大変、重要なことなのではないかなと思います。ぜひ、これからもPTA会員の皆さんの負担を取りながら、子どもたちのためにできる活動というのは何かということを進めていただければと思います。

続いてご発表ありました、香川大学附属幼稚園さんの取り組みですね。ご発表がございますけれども。こちらの幼稚園さんは、クラス新聞作りですとか、夕涼み会、読み聞かせ、手作りおやつとかですね。大変、活動、盛りだくさんでございまして、精力的にPTA活動が行われているという様子が伝わってまいりました。私も、実は下の子が幼稚園なんですけれども、幼稚園に行くとき普段、家では見れない様子が、わが子の一面が見れるというのが、こういったPTA活動の参加することの素晴らしい点だと思っております。そういったことが喜びでございますし、PTA活動やってよかったなというような思いにもつながるんじゃないかなと思っております。

ます。

また、こちらの香川大学附属幼稚園さんは、附属という特色を行かされて、小学部、中学部と連携した運動会、ここ3年ほどコロナでできないということなんですけれども、そういう活動にも取り組まれておりまして。昨今、年の離れた子ども同士が遊ぶといったのはなかなか減っておりますので、そういった年の離れた子どもたちの交流、異年齢交流というのが図れるというのも大変、素晴らしい活動ではないかなと思います。早くコロナが落ち着いて、そういった取り組みができれば素晴らしいんじゃないかなと思います。

以上、3園の皆さんのご発表を聞いての感想を述べさせていただきました。どの園のご発表も、子どもたちの成長に対する喜びですとか、園に対する温かなまなざし、保護者、相

互のコミュニケーション...こういうことは素晴らしいんじゃないかなと思いました。このコロナ禍の下でございますけれども、子どもたちに対してなかなか活動ができないという状況でございます。

そういう中で、子どもたちにリアルな体験を提供していくというのもまた大事でございまして、文部科学省としても、これから子どもたちのためのリアルな体験活動ができるということに取り組んでいきたいと思っております。PTAの皆さまにおかれましても、園と家庭、また地域をつなぐ要として、引き続きご理解とご協力をいただければと思っております。

本日は、大変、事例発表いただきまして誠にありがとうございました。以上でございます。

指導助言



全国国公立幼稚園・こども園長会
会長

箕輪 恵美

全国国公立幼稚園・こども園長会の箕輪でございます。本日、ペア発表をいただきました3園のPTAの皆さま、貴重な発表をありがとうございました。私からは、きょうの発表で感じたこと、自分なりに考えたことを皆さまにお伝えをすることで助言に代えさせていただきたいと思っております。資料を画面に映してお話を進めたいと思いますので、少々お待ちください。

令和4年8月6日
第60回 全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会
山口大会

見ちやる 聞いちやる 話しちやる
子供の明日 無限の未来
～親子の絆が“ふく”を呼ぶ～

指導・助言に代えて

全国国公立幼稚園・こども園長会
会長 箕輪恵美

画面に資料を映したいと思いますが、映るでしょうか。大丈夫でしょうか。お待たせをしました。まず初めに、兵庫県市姫路立飾磨幼稚園PTAのご発表についてです。本日のご発表では、お祭りという地域の文化がPTAの活動にも、園の行事にも、園と地域との関わりにも生かされていきました。

国公立の園は、どの園も地域に根差しているということが特徴の一つなので、このように地域の文化に目を向けて生かしていくという発想は、国公立ならではの発想ではないかなと思いました。地域の文化を生かしたPTA活動は、子どもたちの園生活に彩りを与えてくれることにつながります。また、地域の子どもの見守られながら育つというような関係性も生み出しますし、さらには子どもたちが地域に愛着を持つ。それから、子どもたちが地域から愛され、大事にされる、そのようなことにもつながっていくのではないのでしょうか。

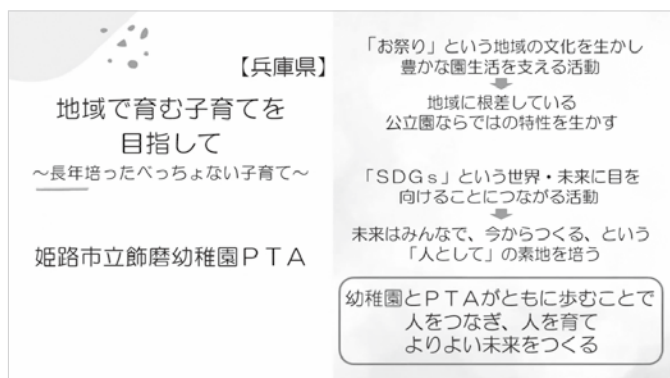
また、PTA活動のもう一つの視点として、SDGsへの取り組みもなされていきました。この視点、これからの時代を担っていく子どもたちにとって、また子どもたちに未来を託す私たち大人にとって、とても大事な視点であると思いました。ちょっとSDGs、このシートを映します。ご覧になったことがある方、多いかなというふうに思います。画面にある17の目標を人ごとではなく、自分のこととして日々の生活の中で意識するというのが、もしかしたらPTA活動を通してできるのではないかな、そのような可能性を感じました。人ごとでなくなることによって、きっと一人一人の考え方や行動が変わっていくのではないかなと思います。



今、飾磨幼稚園PTAさんが行われている古紙の回収です

とか、アルミ缶の回収のような活動は、今、目標の12番目にあるもの、こちらに関わっているというふうに見えますが、この活動をきっかけにして、物を大事にしようということをする多くの人が意識をして、日常の生活でもより良い行動をするようになると。今、丸をプラス5個付けましたけれども、このように環境とか、気候とか、まちづくり、健康福祉というような他の目標に関しても良い影響が出るのではないかなと思います。

また、PTA活動そのものが園の教育活動園をしっかりと支えてくださる活動ですし、園と保護者のパートナーシップに基づいて活動ですので、PTA活動するということ自体がより良い未来をつくるためにとても意味があるということも分かります。飾磨幼稚園PTAの皆さまが、幼稚園と共にというパートナーシップを大切にPTAの活動されることが在園児、園の教職員、保護者の皆さま、地域の皆さまのつながりをつくり、深め、つながりがあるからこそ、飾磨の地域の子どもも大人も成長することができる。そのことがより良い未来をつくっていく、その原動力になったらいいなということを願っております。素晴らしい発表ありがとうございました。

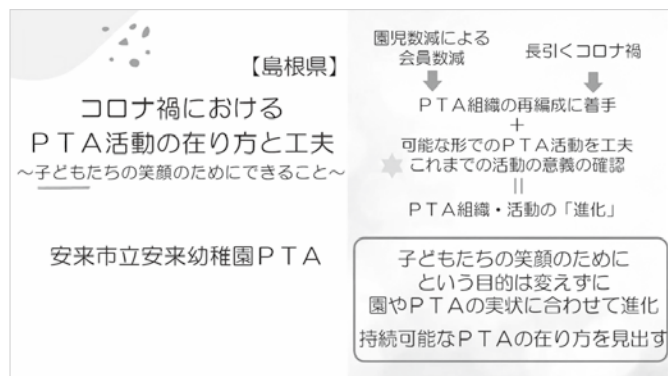


次に、島根県安来市立安来幼稚園PTAのご発表についてです。先ほどの飾磨幼稚園もそうですが、安来幼稚園も幼稚園としての歴史の始まりが、地域の方がつくられたことに由来しているというふうにお話がありました。実は、私の勤務園も同じような歴史を持っておりまして、このことは公立幼稚園にはよくあることで、各園が地域に根差しているということを物語っているように思います。安来幼稚園のPTAは、きっと、これまでもさまざまな課題に向き合って乗り越えていらしたと思いますが、今、直面している大きな課題は少子化による園児数の減少と、それに伴うPTAの会員の減少、そして長引くコロナ禍ということがお話から分かりました。このことは今、全国の国公立の幼稚園の多くが直面していることでもあります。きっと、きょう、ご覧になってる多くの方がご自分の園のことと同じようだなというふうに思われて、お聴きになっていたのではないのでしょうか。

安来幼稚園PTAでは、これらの課題を前に歩みを止めて

しまうのではなくて、現状に向き合って、この状況の中でも子どもたちの笑顔のためにできることを考えようとされ、組織の再編に踏み切り、実現の可能な活動を考え、実行されている点が素晴らしいなと思います。安来幼稚園PTAが前向き、現状に即した形に組織や活動を変え、PTA活動で大切にしてきた子どもたちの笑顔のためにという目的を、新たな形で実現されていらっしゃることを、私はPTA組織、PTA活動の進化であるというふうに捉えました。

一方で、PTA文集という伝統のあるPTA活動を大切にされていることも心に残りました。子どもたちの育ちを目に見える形で残すことは、一人一人の成長を改めて確認するきっかけになり、子どもたちの成長をみんなで喜び合えることにもつながります。PTAでこれまで行ってきた活動の意義を改めて考え、変えるべきものと、変えずに残すものを見極め、意義あるものを残していくということも進化していく上では必要であると考えます。安来幼稚園PTAの皆さまが、これからも子どもたちの笑顔のためにという目的をぶれることなく大切にされ、時代の流れや園の実状を客観的に見極めながら、安来幼稚園に通う子どもたちの笑顔、そして、安来幼稚園が未永く地域に愛されることを支える、持続可能なPTAの在り方を見だし続け、これからも進化されることを願っております。素晴らしい発表ありがとうございました。



次に、香川県香川大学教育学部附属幼稚園PTAのご発表についてです。こちらのPTAでは、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校の3校園一体のPTA組織であることが、最大の特徴だと思います。PTAでは、この合同の組織を小委員会という名称を付けられており、一方、学校園のほうでも附属の幼小中に加えて、附属特別支援学校を含めた4校園で、附属坂出学園という名称を使われているようで、PTAも学校園も一体感が強く感じられます。小委員会のような幼小中合同のPTA組織があるということは、子どもたちが幼稚園の入園から幼小中と進学し、中学校の卒業までの12年間の成長していく過程を、園、学校の教職員も、保護者の皆さまも一緒に支えていくことにつながると思います。コロナ禍が長引く中、これまでどおりの活動ができないということとはどの園でも同じような悩みを抱えていると思いますが、附属幼

稚園PTAではコロナ禍だからできないかではなく、どうやったらできるかを考えながら進めていってほしいというところに、皆さまの心意気と熱意を感じました。

本日、ご紹介いただいた活動は、園児向けの楽しい催しから園行事、幼小中合同行事のサポート、さらには保護者の方の、交流の機会の設定など、本当にバリエーションが豊かで驚きました。このような附属幼稚園PTAの活動を支えているものの一つが、合同組織という特徴であるように思います。実は、私の勤務園のPTAも、同じ敷地の中にある小学校と幼小合同のPTA組織なので、一部のPTA活動は幼稚園の年少から小学校6年生までの保護者の方が縦割りで、学年を超えて一緒に活動をしています。コロナ禍もあって、なかなか人間関係が難しい中ではありますが、私の勤務園のことも振り返りながら合同の組織の良さというものを考えてみると、今、顔合わせることがなかなか難しいので、ご近所付き合い少なく、隣の方の顔も分からないようなそんな関係が増えている中で、幼小合同でPTAの活動を行うことが、保護者の方のお子さんの学級、学年を超えた顔見知りをつくることにつながって、地域に知り合いが増えるきっかけになっていると思います。

また、園でPTAの活動された保護者の方が学校に行っても、PTAの活動に積極的に参加してくださって、学校の良き応援団となったり、お子さんが大きくなったあかつきには今度は地域を支える立場で活躍されることもなるように思います。学校や園にとっては、地域と学校、園をつないでくださる貴重な人材であり、そして地域にとってはコミュニティーを支える貴重な戦力であり、地域力の向上にもつながっていく、そのように感じています。今、幼小、あるいは幼小中の合同持っていらっしゃるPTAにおかれましては、ぜひ、その意義をお確かめいただいて、今後も合同組織の良さを生かしていただければと思います。

また、多くの園では合同組織はお持ちでないと思いますが、これからの時代は少子化で、園も学校も規模が縮小していくことが考えられます。そのときに、既存のPTA組織を新たに幼小合同のPTA組織に編成し直すということも、視野に入れていくといいのではないかなと考えます。少子化を逆手

に取ることでPTAの新たな枠組みを創造し、これからの時代にふさわしい形に進化できるかもしれません。

今、教育の世界では、子どもの成長を学校の教育の始まりである幼稚園、こども園から、小中高等学校まで縦のつながりを意識して、子どもたちがこれから必要な力を途切れなく育んでいくことを重要視しています。一方、学校や園の地域と縦、横、斜めつながりを持つことで世界が広がり、中身が厚くなり、豊かなものとなっていきます。PTAという組織は、学校教育そのものも、学校園と地域のつながりも、その両方を支える力を持っていると思います。小委員会の皆さまにはそのことを体現できる強みをこれからも生かし、坂出学園の子どもたちの成長を力強く支えていただくことを願っています。ご発表ありがとうございました。

本日の3園のご発表からは、子どもたちのために園と共にということはこれからも大切に。一方で、PTA組織や活動の在り方は、時折、足を止めて、意義を確かめながら今に見合う形に変えていくこと、その必要性を教えていただけることができました。また、そのようなことを心に留めPTA活動を行うことは、子どもたちも、教職員も、保護者も、みんなが地域に根を張る人になれることにつながって、そのような絆は今の幸せ、そして、これからの未来の幸せにもつながるんだ、そのようなことも実感いたしました。

3園の皆さま、本日は貴重な事例の発表、ありがとうございました。私たち大人は、これから目の前にいる各園の子どもたちだけではなくて、大人たちみんなが地域を超えたつながり、きょうのような全国につながるそのようなつながりを持って一緒に活動していくことで、全国の子どもたち一人一人の成長を一緒に支えていきたいということも、きょう、改めて強く思いました。私が本日、感じたこと、皆さまの活動から学んだことを今度は全国の国公立の園長先生がたにもしっかりとお伝えしていくことで、きょうのお礼に代えさせていただきますと思います。本日は、本当にありがとうございました。



【香川県】

みんなで育てるこどもの力
「自分でTry ふぞくっ子」
～一人一人の個性を活かして～

香川大学教育学部附属幼稚園PTA

幼小中3校園一体のPTA組織
＜松韻会＞

↓

12年間の子どもの育ちを支える
どうやったらできるか、を考え実行する

★合同組織の良さ★
保護者同士のつながりが生まれる・深まる
学校園と地域がつながる
地域に根差した人が増える・地域力が高まる

学校教育の「縦のつながり」
そして
学校園と地域の
「縦・横・斜めのつながり」
PTAはその両方を支える存在

「子どもたちのために」「幼稚園・こども園とともに」
ということは、これからも変わらずに

コロナ禍や少子化という現実に向き合い
持続可能な組織に進化+できる形での活動を創造

そのようなPTA活動は、
子どもが「地域の子」として育つことを支える
そして、子どもも教職員も保護者も、地域に根を張る人となる

絆 幸福 未来

令和4年度優良PTA文部科学大臣表彰

おめでとう



令和4年度優良PTA文部科学大臣表彰被表彰団体一覧

群馬県 中之条町立沢田幼稚園PTA

東京都 中野区立かみさぎ幼稚園みどり会

東京都 港区立南山幼稚園PTA

大阪府 大阪市立立葉幼稚園PTA

大阪府 認定こども園豊能町立ふたば園PTA

兵庫県 宍粟市立河東幼稚園PTA

岡山県 倉敷市立琴浦東幼稚園PTA

山口県 山口大学教育学部附属幼稚園PTA

徳島県 阿南市立大野幼稚園PTA

香川県 香川大学教育学部附属坂出学園松韻会幼稚園部

「家庭や地域の開かれた幼稚園づくり」 ～地域のよさを生かし、豊かな体験を 実現していく幼稚園をめざして～

宍粟市立河東幼稚園

園長 安川 夏江

この度、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会に於いて、令和四年度優良PTA文部科学大臣表彰という栄を賜りましたこと、感謝申し上げます。このような名誉ある賞を受賞することができました背景には、これまで本園に関わって下さった歴代のPTA役員・会員の皆様のお力添えと、地域の皆様の温かいご支援があったからこそと、心より感謝しております。

本園は宍粟市の東南端に位置し、園周辺には新しい住宅も増えていますが、山々と田畑に囲まれた農山村地域で、四季を通して身近な自然に親しむことができます。地域の中で唯一の幼児教育施設であり、高齢者をはじめ地域の方々の知識や知恵を伝承してもらえるなど、地域との関わりが深い幼稚園です。

近年は園児数の減少で園運営の難しさを感じていますが、たとえコロナ禍であっても、園児の豊かな体験活動が得られるように、幼稚園、家庭、地域が連携を図りながら、その計画・実施をしています。

【発酵のふるさと宍粟に繋がる味噌作り体験】

休園となった近隣の幼稚園が取り組んできた味噌作りを、本園が引き継ぐ形で始まりました。白大豆の苗植え、収穫、脱穀、味噌の仕込み、すべての行程に関わっていきます。

事前に大豆の畑に鹿柵の設置作業を保護者有志で行いました。味噌作りに詳しい保護者から、これからの過程を教えてもらえる機会にもなり、初めての体験活動に期待も膨らみました。

6月後半には、大豆の苗植えをしました。近隣の小学3年生が育てた苗です。地域の方に、今日植える苗が豆となり、味噌へと変化していくお話を、分かりやすくしていただいたことで、園児一人一人が苗を大切に植えることができました。



収穫した豆を一部枝豆として味わた後は、乾燥させた大豆の脱穀作業です。地域の方が持っておられる昔の「足踏み脱穀機」や「とうみ」を使って丁寧に作業していきます。よく考えられた昔の機械に、園児たちは興味津々でした。

足踏み脱穀機の使い方は要領が分かるまで難しいのですが、地域の方が一緒にしてくださるので、だんだんコツをつかんできました。



とうみで豆の選別をする作業も同時に体験しました。きれいになった豆が、機械からころころと音を立てて出てくると、「すごい！」と歓声があがりました。



最後は味噌の仕込み作業です。柔らかく煮た豆に麴や塩を入れて混ぜ合わせ何度もこねて味噌を作りました。次年度の秋が食べごろです。

何でも簡単に手に入りやすい現代社会において、この味噌作りでは、手間暇をかけることの大切さや、本当に体によいもの、本当においしいものを選んでいく力を育む「食育」に繋げていくことをねらいとしています。



そして、味噌作り体験を通して地域の方と交流を深めていくことで、地域のよさ、ふるさとのよさが幼児たちの心の中に刻まれていくことを、願っています。

幼稚園、家庭、地域が一体となっていくことのできる体験活動として、大事にしていきたい活動の一つとなりました。

【老人クラブとの活動】

年間を通して、地域の老人クラブの方々が園行事や環境整備に関わって下さっています。

○夏野菜の栽培

新学期になると、今年度栽培したい野菜を出し合い、老人クラブと計画、準備に入ります。準備ができたなら、老人クラブの皆さんと園児が、一緒に苗を植えます。毎年どの



野菜も豊作で、園児は野菜の生長について友だちと伝え合うと共に、収穫の喜びも味わっています。たくさん収穫できた時には、その数を一生懸命数えたり絵に描いたりするなど、興味・関心も広がっています。

○老人クラブと園内クリーン作戦

6月には、老人クラブの皆さんと一緒に園内の環境整備をします。園児たちはグラウンドの草抜きをしたり、刈り落とされた藤の枝を運ぶ作業を手伝ったりします。「これも運ぼうか?」「おお!よう働くな、えらいな」そんなやり取りがとても嬉しい園児たちです。



○老人クラブと焼き芋やとんどの体験

長年お手伝い下さっている活動です。各老人クラブの中で、準備や当日の流れなどが毎年引き継がれており、日程の調整がつくとすぐに準備に取りかかっています。

当日は園児と未就園児、老人クラブの方が集い、楽しく交流しています。このような交流を快く引き受けて下さる老人クラブの皆さんの存在はとて大きく、体験活動の要となっています。



【終わりに】

ここにご紹介した活動の他にも、小、中学校との連携や、老人クラブのその他の活動、地域の方の協力に支えられている活動がたくさんあります。

情報化が急激に進んだ社会の中で、幼児が直接体験をする機会は減ってきています。そのような中で、地域で様々な人や自然との触れ合いができる体験活動のもつ意味はとて大きく、これまで培われてきた地域の教育力が大いに生かされる時代であるとも言えます。

今回の受賞で、これまで取り組んできたPTA活動の実績、豊かな体験を取り入れた教育活動の実施が認められたことは、保護者や地域の方、そして、園にとって大きな励みとなりました。

今後も、地域との連携を密にしながら、実り豊かなPTA活動の実現、園児の育ちを積極的に地域に発信していくことのできる園づくりを、めざしていきたいと思います。

「子どもたちの笑顔のために」 ～親も子も保育者もみんなで育ち合うPTA～

山口大学教育学部附属幼稚園

令和4年度 PTA会長 吉木祥介

この度は、令和4年度優良PTA文部科学大臣表彰を賜り、誠にありがとうございます。このような名誉ある賞を受賞できましたのは、歴代のPTA役員・会員の熱意あるPTA活動や、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力の賜物と心より感謝しております。

本園は、自然豊かな山口市の中心部に位置し、現在84名の園児が通っております。近年、就労する保護者の割合が増えつつありますが、保護者は大変協力的です。また、保護者間のつながりが強く、皆さんPTA活動の重要性とともにその楽しさを周知しておられて、明るく楽しく、笑顔で子どもたちのために活動してくださっています。

PTAの運営方針

「子どもたちの笑顔のために」を活動スローガンとし、子どもも保育者も自然と笑顔が生まれるPTAを目指しています。子どものために頑張るのではなく、保護者が楽しければ子どもも楽しくなる、保護者の笑顔の下で子ども笑顔が生まれるということを大切に、保護者同士が親睦を深めたり教養を高めたりして成長し、みんなで育ち合う喜びが感じられるようにと考えています。

また、「できるときに できるひとが できるかたちで」をモットーとしており、それぞれの家庭の事情に応じて参加できるようにと思っています。コロナ前は、何かといえば集まってワイワイ楽しく活動していましたが、コロナ禍では、集まることは極力少人数で短かく済ませ、オンラインで情報共有したり、家庭で作業したりすることが増えました。奇しくもこれらの取組は、「協力したい気持ちは山々だけど保育時間中の活動は難しい」という共働き保護者への対応とリンクし、新しいPTAのあり方を探っていくことに繋がりました。

令和4年度は、「コロナ禍であっても、可能な限り子どもたちの活動と学びを保障する」という園の方針のもと、PTA活動も、子どもや会員にとってより意味深く、できそうなことから少しずつ実施してきました。そのような今年度の活動をご紹介します。

PTA組織と活動

文化部の活動

文化部は、保護者に文化的な場を提供するための活動を行うことを目的とし、趣味や特技を生かした活動を通じて保護者間の親睦を深めるとともに、保育環境の充実を図っています。今年度は、オンライン講座を開いたり、布玩具のキッド

を夏休み前にボランティアを募って配付して、休み中につくっていただいたりしました。

フェルトのままごとグッズやなりきり衣装等の製作や補修は文化部の活動の伝統となって引き継がれていて、子どもたちは、いつも感謝しながら喜んで使っています。



オンライン講座



手作り布玩具

環境・図書部の活動

組織見直しにより環境部と図書部を一体化し、令和4年度から内容を精選して活動しています。子どもたちがよりよい環境の中で快適に楽しい生活が送れるよう、園内環境の整備や充実を図ることを目的としています。

花を植え替えると、子どもたちが「わー、きれい。ありがとう」と寄って来て、一緒に水やりをしてくれます。花の水やりは、ボランティアを募って実施しました。

また、始業式の日の登園後に除草作業をしたり、秋にはボランティアを募って登園後15分程度落ち葉掃きをしたりなど、登園ついでに少しの時間で協力できる手軽な活動を行なっています。降園後の絵本貸し出しや蔵書点検も行い、「環境による教育」に一役を担っています。



花の植え替えと水やりを手伝う子どもたち



落ち葉掃きボランティア



蔵書点検

広報部の活動

年2回の広報誌「まなざし」の発行が主な活動で、子どもたちの園生活の様子や、先生たちの思いなどを伝えようと、取材と企画に知恵を絞っています。

コロナ禍では、SNSを使って相談・連絡し、集まる回数を減らしましたが、アイデアはむしろ増えて、工夫を凝らした広報誌が作成されています。取材で子どもの様子を見たり園の話を聞いたりして分かったことを保護者に伝えながら、園とPTAをつなぐ架け橋になればと思っています。

100号を超えた過去の「まなざし」からは、本園PTAの歴史と重みを感じ、伝統と新しさをうまく合わせながら活動するPTAについて情報発信したいと思っています。



学級部の活動

学級部は、学級の円滑な運営を助けると共に、学級を超えた保護者間の親睦を図ることを目的とした活動を行っており、コロナ前は幼稚園祭りやバザーの企画運営、学級活動を主な活動としていました。コロナ禍で祭りや集会等が難しいときは、親子プロフィール帳を作成したり、テーマを設けて少人数の懇談会をしたり、学級部としてできることはないかと考えて、ボランティアを募ってのカーテン洗濯を実施したりしました。

令和4年度は、少人数ずつの親睦会や、親子学級活動などを実施しました。また、学級部を中心にPTAが一丸となって取り組む幼稚園まつりは、コロナ対策を講じて、3年ぶりに全保護者参加で実施することができました。お父さんの飛行機作りコーナー、先生たちの飛ぶおもちゃ作り、山口大学生のパネルシアターからなる体験ゾーンと、年長保護者が当日運営を担当する、ボーリングやくじ、的当て、スーパースクールすくいなどのお祭りゾーンとに分け、親子一緒に密にならないように回りながら楽しく過ごしました。年少・年中の保護者は、当日までの準備で、景品作りやパスポート作りなどにボランティアや持ち帰り作業で協力し、全保護者による祭りとなりました。子どもたちの笑顔はもちろんですが、久しぶりに親子一緒にの活動にみんなで参加できた保護者の喜びもひとしおで、園内に笑顔が溢れました。



まつりボランティア



総踊り



笑顔があふれる楽しい幼稚園祭り



男性保護者の活躍（ピーマンJr.の会）

お父さんやおじいちゃんなどの男性保護者で構成する「ピーマンJr.の会」では、保育参加後や夏休みに除草・剪定作業をしたり、地域の五十鈴川清掃に参加したりしています。R4年度は木製遊具への防腐剤塗りも行いました。コロナ禍では幼稚園祭りでの出店や餅つきの手伝いなどの飲食関係の出番がなく少し寂しくもありましたが、運動会の TENT 張りや片付けなどにも積極的に参加し、幅広く男性ならではの力を発揮しています。PTA 活動を含む男性の子育てへの積極的な参加・協力は頼もしい限りです。



遊具への防腐剤塗り



夏の除草作業



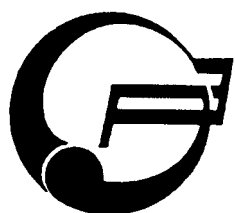
幼稚園祭りでのお父さんコーナー



運動会のTENT張り

おわりに

時代の変化とともにPTAのあり方も再考が必要となりました。本園においても、保護者の多くが抱いている「子どもたちの笑顔のために協力したい気持ち」や「みんなと楽しく参加したい」気持ちと実際に協力できる時間を考慮し、活動形態や活動時間などが多様なメニューを用意しながら、どこかで誰かがかかわって皆で創るPTAをめざして活動を続けているところです。親も子も保育者も育つ幼稚園を支えていくのがPTAの役割だと思っています。これからも、「できるときに できる人が できるかたちで」参加しながら、共に育ち合う笑顔あふれる幼稚園とPTAでありたいと思います。



全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会章

第61回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会 大分大会ご案内

大会主題 手をつなぎ 広げていこう 地域の輪
～宇宙のオンセン県オオイタで湯ったり語ろうえ～

期日 令和5年7月29日(土)・30日(日) 場所 ホテル日航大分オアシスタワー



後援：大分県

第61回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会大分大会 大分大会運営委員長 清松 督雄

第61回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会大分大会運営委員長の清松督雄と申します。

会員の皆様の日頃からのPTA活動へのご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

昨年度は、初めてのYouTube配信による新潟大会の開催に続き、本年度は対面とオンライン配信と合わせて、山口県下関市の会場に、代表の会員が集ってのハイブリット開催でした。

新型コロナウイルス感染症が始まって3年が経過し、ワクチン接種が進む中、行動制限も緩和されましたが、感染対策等を考え、会場は一か所ですべてを開催し、参加人数も制限をするなどの配慮をしつつ細心の注意を払って開催するように準備を進めています。

さて、全国的に少子高齢化の波が進み、大分県でも子どもの数は減少しています。家庭の形態も大きく変化するとともに、価値観も多様化し、今幼児期の教育や保育を取り巻く環境は、大きく変わってきています。

保育ニーズの高まりや認定こども園の数が増えたことにより、園児数が減少し、幼稚園数も少なくなっています。

子育て支援制度や働き方改革などから幼児教育の重要性が再認識されています。

幼児教育の質の向上が求められるとともに、その認識はますます高まっています。

更に、幼児期の子どもたちにとって、最も大切な「人と人とのつながり」が薄れつつある今こそ「心の教育」の必要性が求められています。

『幼稚園・家庭・地域』との連携を深め、次代を担う子どもた

ちが幼児期から「心豊かにたくましく」生きる力を身に付けられるよう保護者である私たちこそ、自らが学んでいかなければいけないと思います。

PTA活動を通し、親の立場として何ができるかを考え、今後でも取り組んでいきたいと考えています。

大分大会では、幼児教育の重要性和家庭・地域の役割の大切さについて第1回島根大会から連綿と受け継がれてきたものに「大分らしさ」を加味し、次代につなぐ役割を果たしたいと願っています。

大会主題に『手をつなぎ 広げていこう 地域の輪 ～宇宙ノオンセン県オオイタで湯ったり語ろうえ～』を掲げ、全国の会員と関係者が一堂に会し、情報交流会では幅広く親交を深め、講演会や研究協議などを開催していきます。

広く県下の会員の皆様の創意と英知を結集して、大分から全国の子育て奮闘中の仲間に向け情報を発信し、家庭の教育力を高め子どもたちの健やかな育ちに資する大会にできればと決意を新たにしているところです。

第61回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会大分大会を令和5年7月29日(土)・30日(日)に大分県大分市にて開催を致します。

開催地大分は、豊後水道の海の幸に恵まれ、古より水産業が盛んであるとともに山の幸、川の幸にも恵まれ、更には日本一の温泉の恵みあふれる地です。

自然豊かな大分で、美味しいものをご堪能して頂き、心も体もリフレッシュしていただけたらと思います。

全国の皆様のお越しを心よりお待ちしております。

会書事務
計記局
岡守角
本屋純
由恭子
美子

監事
黒高青永吉高清野谷森中大山
木谷木瀬田橋松々村瀬川関崎
愛靖博義慶子督利忠博篤
子枝子剛子雄也貴克喜寛史

役員
副会長 山崎篤史
会長 大関敏寛
中川博喜
森瀬忠克
谷村利貴
野々村卓也
清松督雄
高橋慶子
吉田尚
永瀬義剛
青木博子
高谷靖枝
黒木愛子

顧問
萬里小路伸一郎 (元全幼P会長)
猪木直樹 (前全幼P会長)
上枝秀則 (前全幼P副会長)
今井昇 (前全幼P副会長)
太田禎彦 (前全幼P副会長)
新司英子 (前全幼P事務局長)
酒井幸子 (元全国国公立幼稚園長会長)
岡上直子 (元全国国公立幼稚園長会長)
池田多津美 (元全国国公立幼稚園長会長)
荒木尚子 (元全国国公立幼稚園長会長)
岩城眞佐子 (元全国国公立幼稚園長会長)
関美津子 (元全国国公立幼稚園長会長)
新山裕之 (前全国国公立幼稚園・こども園長会長)
箕輪恵美 (元全国国公立幼稚園・こども園長会長)
深町芳弘 (元全国国公立幼稚園長会事務局長)
楚阪博 (前全国国公立幼稚園長会事務局長)
佐藤忍 (全国国公立幼稚園・こども園長会事務局長)

令和4年度
顧問・役員のご紹介